

2011/07/30 京都レッツラーン大学校設立準備委員会
事業成果報告に関する意見交換

・学習サポーターについて

(委員) 市民講座でも継続できない学習者がいる。eメンターをおいている。学習経験のある人が支援している。KSPLの現在は学生がメンターしているようなので 継続している気がするが、企業の方々がメンターになったときに、どうなるか？

(事務局) それはいろいろな人から指摘をされているところ。今はできるところからやっている。学生も単位が目的でやっているのではないところが、普通の学生と異なる。

・試行講座参加者のメリットについて

(委員) 現在参加している(大阪工業大学、同志社大学の)学生はどのようなメリットがあつて？

(委員) こういうのがあつたら受けてみたら？と言ってみた。就職内定者に企業から課題が届くがその内容が今回の講座ととても似ている。今から勉強してみたら？と言ってみた。就活、就職後に役立つ。院生がしっかりしていて、他のメンバーをひっぱってくれている。

(事務局) 同志社の渡辺研究室の学生も単位関係なく参加している

(委員) 単位関係なく参加してくれるっていうのは、魅力があるから？

(事務局) 楽しいと感じているから

(事務局) 研究室を横断して交流できる貴重な機会となっているようだ

・学習プログラムについて

(委員) わかりにくかったのは、座学で勉強していたことと実験の関係は

(委員) 実際はスタティックな情報 シミュレーターを頼らずに回路解析をできる力を育てることをねらった講座だけれども シミュレーターを使うと計算しなくなる

(事務局) 舞鶴の京都職業能力開発大学校も好意的。eラーニングで予習し地域の技術者がスクーリングとして大学校の設備を借りるという連携も。OJTを加味した

・教材作成について

(委員) それにしても学生はよくやっているなど。単位も関係ないのに。普段学生はこんなに学ばない。インセンティブはなになのか

(事務局) 学習の定義をシンボルの意味を読み解くことと考えている

(委員) 如何に意味を感じ取れるようにするかということですか

(事務局) そうです うまく教材の並び方とか、組み合わせ方とか。学生が学ぶために工夫している 学び方を他の人から学ぶ

・日本、諸外国の雇用政策を踏まえた取り組みについて

(委員) 技術者にアプローチでいけるだろうか？管理職へのアプローチも大切

(事務局) 「けいはんな」地区のメーリングリストがある

(委員) 団体も含めて 2000。少ないがレスポンスがある

(事務局) そのメーリングリストに参加者がポスティングしてくれたらいいと思う。

(委員) 緊急雇用の枠組みから中小企業支援の枠組みへ - 行政の緊急雇用の担当と中小企業支援の担当が違う。どこに相談するのか調査中。

(委員) 新しいジョブカードは日本版 NVQ を目指すと出ている

(事務局) 一般社団法人公共人材開発機構、京の公共人材育成に相談にのっていただいている。たたき台になっているのは EQF (ヨーロッパ資格認証枠組み)。資格認証デュアルシステムで職能教育 H16-17 高専で検討された。地域公共人材開発機構での認証 高いレベルを要求されている

・有償化にむけて

(委員) 学ぶ力に依存している形になっている。グループ間に隔たりがあったときにどうなるのかという心配があった。内定者研修に成果があるような気はするが。ビジネスにはなりにくいのでは。226の2の人が参加したときに、実はかなりコストがかかってくるのでは

(事務局) (厚生労働省の) 基金訓練で認められるプログラムになる

(委員) その層の動機が。でもまずはヤル気がある人を対象にするしくみになっている

(委員) 訓練費を使って参加してもらわないと、独自に参加してもらうのは難しい

(委員) コースによって対象の広がり異なる。また異なる講座も考えておいた方がいいのかも。例えば電子回路など

(委員) ビジネスとして個人に売するためには、インセンティブや効果ははっきりしないと - 中小企業が国からのお金を使ってということならいいのでは - 必ずどっかで集まらないといけないのですか

(事務局) 中小企業でコミュニティを創ってやってもらうのが理想 - 4人プラスマイナス1人の構成が最適。グループ間をネットでつないでやってみる必要がある。(学習者に合わせて) 場所と時間の関係で小さい規模がたくさんあるように

(委員) 参加者の学ぶ力とかが評価できるようであれば、企業の採用と結び付けられるのでは。そうすると企業側も支援するかもしれない

(事務局) そういうことも視野にいれておく必要がある